様　式　Ｃ－４１

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　３ 年　６ 月　７ 日現在

機関番号：３２６１２
研究種目：奨励研究
研究期間：2019～2019
課題番号：１９Ｈ００００５２

研究課題名　　グローバル・シティズンシップ教育による生徒の変容に関する質的研究

研究代表者
原田　亜紀子（Harada, Akiko）

慶應義塾大学・その他部局等・高等学校教諭

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　420,000円

研究成果の概要：　本研究は、高等学校でのグローバル教育プログラム（事前学習、海外体験学習、事後学習）を生徒の受容の在り方や、その後の進路や職業選択への意味付けを「グローバル・シティズンシップ育成の観点から検討した。研究の方法として、事前学習の資料や海外体験学習後の生徒のふりかえりの記述の検討と、卒業生のライフストーリーインタビューを採用し、卒業生がどのようなグローバル・シティズシップを獲得したのか考察した。研究の結果として、卒業生は自らの行動規範や進路選択において、グローバル・シティズンシップをプログラムの目的を超えて多様に意味付けており、その行動変容のタイミングも様々であることが明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義
　本研究は、高等学校でのグローバル・シティズンシップ教育プログラムの生徒の受容について、ライフストーリーを用いて長期的な視点からミクロなレベルで分析する実証的・質的な研究として学術的意義がある。また本研究の事例では、通年での事前学習と海外体験学習による包括的なプログラムが、グローバル・シティズンシップと自らの生き方とのつながりを見出す学習を促すことを明らかにした点で、教育的・社会的意義がある。

研究分野：教育学

キーワード：グローバル・シティズンシップ　海外体験学習　高等学校

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－４１

１．研究の目的

文部科学省は大学でのグローバル人材育成事業に加え、高等学校においても平成 26 年度からグローバル・リーダーの育成を図る「スーパーグローバルハイスクール（SGH）」事業を実施している。SGH では、学習活動において課題研究のテーマに関する国内外のフィールドワークの実施が構想されているが、中等教育における海外での体験の学習のインパクトに関する研究はこれまでなされていない。本研究は、高等学校でのグローバル教育プログラム（事前学習、海外体験学習、事後学習の内容を含む）を生徒がどのように受け止め、その後の進路や職業選択に意味づけを与えているのか、グローバル・シティズンシップ育成の観点から明らかにすることを目的とした。

具体的には、慶應義塾高等学校で 2010 年度から 4 年間実施した「高大連携による国際協力プログラム—カンボジアでの体験学習を中心に—」を事例とし、生徒のプログラム受容と、中等教育での海外体験学習を中心とした包括的なグローバル教育プログラムの在り方を検討した。

２．研究成果

研究の方法としてまず、分析枠組の抽出のため、グローバル・シティズンシップ教育の研究動向を整理した。その上で、事前学習の資料（プロジェクト学習、プレゼンテーション、講演会の感想など）と海外体験学習後の生徒のふりかえりの記述の検討と、卒業生のライフストーリーインタビューを採用し、卒業生が獲得したグローバル・シティズシップはどのようなものであり、日常生活やその後の活動の中にどのように位置づけているのか考察した。

まず、先行研究においては、「変容的な学習」は快適な空間を離れ、罪や恥の感覚を伴うときに起こることが指摘されてきたが、本研究ではこうした強い衝撃を感じなくてもプログラム後も問題意識を持ち続け、留学や海外インターンシップ、社会貢献活動や社会企業といった活動へと行動を起こした例が、インタビューを実施した 13 人のうち半数以上に見られた。また、海外体験学習の最中や直後だけではなく、時間がたってから感情をゆすぶられ思考や行動の変化に至る卒業生もおり、必ずしも教師が想定したタイミングで変容的な学習が起こるのではないことが明らかになった。

次に、先行研究においては、中等教育でのグローバル・シティズンシップ教育は、ともすれば生徒の日常生活やアイデンティティからはかけ離れた規範的なシティズンシップの学習に陥り、そのことが人権問題や社会問題のダイナミックな様相を捉えにくくする側面があること、さらには、中等教育でのグローバル教育はカリキュラムや試験の制約により、グローバル・シティズンシップに含まれる人権や平和といったテーマにじっくり取り組むことが困難であるという指摘がなされてきた。しかし本研究の事例では、通年での事前学習における歴史、文化、言語といった対象国に関するプロジェクト学習、大学教員による途上国の政策研究の講演や NGO 職員の講演、クメール語や英語の講座といった学びを基礎に、海外体験学習ではポルポト時代の影響、現在の選挙制度の問題、人権抑圧を見聞きし、毎晩の振り返りミーティングで疑問や思いを共有、議論した。海外体験学習では、生徒は、異文化体験に加え民主主義や権利擁護の問題を体感したことにより、その後の人生の選択に何らかの意味付けを行い、卒業後の進路選択、職業選択や行動指針につなげていったことが見いだされた。

最後に、卒業生は異文化理解、グローバル経済への参加、社会的な活動への参加といったグローバル・シティズンシップの様々な視点を、個々のこれまでの経験や自らの日常生活の文脈に合わせて獲得しており、その学びはプログラムの構想や実践の目的を超えて多様であることが明らかになった。

本研究は一つの学校の課外学習の事例であり、卒業要件や大学進学とは関係がないプログラムであるため、自由意志に基づく点でモチベーションが高い生徒集団であった点に、研究の限界がある。一方、プログラム参加者には、異文化理解や社会問題に極めて関心が高い生徒のみならず、部活をやめて時間があるからという理由や友達に誘われたからという理由で参加した生徒も半分以上おり、必ずしもモチベーションが高くない生徒を巻き込むプログラムを考える一助ともなっている。また、試験・受験の時期への配慮や、継続性のある課外授業として設定することにより生徒に気持ちの余裕が生まれ、グローバル・シティズンシップ教育の目的が実現しやすくなることも示唆された。

主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計1件（うち査読付論文　0件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 原田亜紀子	４．巻 59
２．論文標題 グローバル・シティズンシップ教育に関する研究動向	５．発行年 2020年
３．雑誌名 東京大学大学院教育学研究科	６．最初と最後の頁 197-206
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計2件（うち招待講演　0件／うち国際学会　1件）

１．発表者名 原田亜紀子
２．発表標題 高大連携による海外体験学習を中心とした開発教育プログラムに関する研究
３．学会等名 日本生涯教育学会
４．発表年 2019年

１．発表者名 原田亜紀子
２．発表標題 The Transformation of Students’ Values after a Global Citizenship Program Including Short-term Study Abroad at a High School
３．学会等名 Comparative and International Education Society (virtual presentation)（国際学会）
４．発表年 2020年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

研究組織（研究協力者）

氏名	ローマ字氏名